

# 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	北区
学校名	西天満小学校
学校長名	弘元 介

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・西天満小学校では、第6学年 60名

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語、算数とともに大阪市平均、全国平均を大きく上回る結果となった。

平均正答率は、大阪市平均と比べ、全ての教科で10ポイント以上上回っている。また、平均無回答率は全ての教科で1%以下に収まり、大阪市平均、全国平均よりも良好な結果となっている。

児童質問紙についても、肯定的な回答をする児童の割合は、全国平均を上回る結果が多くみられた。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕 すべての領域において、全国平均を上回っている。特に「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」では、全国平均を15.6ポイント上回っており、基礎的な言語知識の定着が十分に図られているといえる結果である。本校独自の取組である日記「たくましくのびていこう」や漢字検定などの指導を継続して行ってきた成果であると考えられる。

〔算数〕 すべての領域において、全国平均を上回っている。特に「図形」領域では、全国平均を20.5ポイント上回っており、図形の性質や構成に関する学習を通して、空間認知力や観察力の育成が順調といえる結果である。

〔理科〕 すべての領域において、全国平均を上回っている。特に「生命」を柱とする領域では、全国平均を10.9ポイント上回っており、動植物の生態や人の体の仕組みに関する内容で、変化や特徴を捉える力がついているといえる結果である。

算数・理科においては、いずれも中学年から教科担任制（専科指導制）を実施しており、専門的な指導の充実を継続して行ってきた成果であると考えられる。また、学力向上支援チーム事業（スクールアドバイザーなど）を活用し、効果検証授業を通して指導法の助言を受けたり、校内研究全体会に参画していただき学校全体で授業の質の向上に努めたりする等の取組が、良好な結果に結びついたと考えられる。

質問調査より

〔学校生活〕 「学校に行くのは楽しいと思いますか」に95.1%、「友達関係に満足していますか」に95.1%の児童が肯定的な回答をしており、前向きに充実した学校生活を送ることができている。「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないだと思いますか」に100%、「人が困っているときは、進んで助けていますか」に93.4%の児童が肯定的な回答をしていることからも、道徳的意識をもつて友達や他者へ配慮する力が育っていると考えられる。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に96.8%の児童が肯定的な回答をしており、教職員がこうした児童の様子を見取ったり認めたりすることにより、自己肯定感を育んでいると考えられる。

〔ICT〕 「あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか」に86.9%、「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか」に73.7%の児童が肯定的な回答をしており、ICT機器の基本的な操作スキルは高い傾向にある。また、学習活用面では「（3）楽しみながら学習を進めることができます」に78.8%、「（4）画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる」に86.9%の児童が肯定的な回答をしていることからも、学びへの好影響を実感している児童が多く、ICTを効果的に授業で活用できていることが分かる。

## 今後の取組(アクションプラン)

・基礎的な学力の定着が図られている一方、「考える力」「伝える力」の育成が次の課題である。課題解決に向け、外部支援（学力向上支援チーム事業やブロック化学校支援事業）を今後も効果的に活用し、記述問題において理由の説明や根拠をより明確にした解答ができるよう表現力の育成に努めたい。また、組織的に授業改善に努めていき、教職員一人ひとりの授業力の向上に取り組んでいきたい。

・どの教科においても児童の理解度は高いが、児童質問「教科の学習が好き」「教科の学習が得意」「思考すること、表現することが楽しい」に関連する項目での肯定的回答の割合は、他の質問と比較するとやや低くなっている。今後は、学習内容と将来とのつながりを感じられる授業や、考えること・伝えることの楽しさを実感する授業づくりに取り組み、基礎的な学力の高さを活かしながら、思考の楽しさ・表現力の育成に努めていきたい。